

しょうがいしゃ

ちいき せいかつ じょうほうし



「障害者」の地域生活情報誌

Vol. 44

ぶるーむ.com

2019.8

夏号

～ じぶん せいかつたの 自分^{じぶん}の生活^{せいかつたの}楽しんで^{たのしみ}いますか？ ～ きれいな海！！（白黒）



CONTENTS

P2. 横^{よこむ}向^{まへむ}きナオの前^{まへむ}向^{まへむ}きデイズ

P4. Oh-Life！！

P6. 日^ひ々^{びん}凡^{ぼん}凡^{ぼん} 最^{さい}終^{しゅう}回^{かい}！？？

P10. いた^まだ^つき^{えい}松^い木^じ栄^だ二^{かい}第^{かい}6回

P11. 活^{かつ}動^{どう}報^{ほう}告^{こく}

◆「ぶるーむ」の由来◆

英語^{えいご}のbloomをひらがな^{ひらがな}表^{ひょう}記^きした^した^たの^の物^ぶです。
bloomには、「(花^{はな}が)咲^さく」「(才^{さい}能^{のう}・事^じ業^{ぎょう}な
どが)花^{はな}開^{ひら}く」な^など^どの^の意^い味^みが^があ^あり^りま^ます。こ^この^の
北^{きた}九^た州^{しゅう}の^の地^ちで、自^じ立^{りつ}生^{せい}活^{かつ}の^の土^ど壌^{じょう}を^をあ^あら^らた^ため
て^てお^おこ^こす^すこ^こら^ら始^はめ、そ^それ^れぞ^ぞれ^れの^の自^じ立^{りつ}生^{せい}活^{かつ}
の^の種^{たね}を^を植^うえ、色^{いろ}と^とり^りど^どり^りの^の自^じ立^{りつ}生^{せい}活^{かつ}の^の花^{はな}が^が咲^さ
き^きほ^ほこ^こる^ると^とい^いう^う願^{ねが}い^いを^をこ^こめ^めま^まし^した。

※前ぜんかい回のお話の終はなしわり部分おから載ぶぶんせています。

「障しょうがいしや害者スポーツのボランティアをしているおじいさん」

文字のまんまです。ジェントルマン風のおじいさんが私に突然、自分は障しょうがいしや害者スポーツのボランティアをしていると教えてくれました。なんて言いえばいいか分わからなかったので、「へー、そうなんですか」「なるほどー」と言いってました。相手はシンパシーを感あいてじてくれたんでしょうが、こっちにとってはただのジェントルマンおじいさんです。

よく、自分の周じぶんりに障しょうがいしや害者まわがいるとか、家族が障しょうがいしや害者かぞくということで声こえをかけられるのですが、それがどうしたというか、「意い外がいと障しょうがいしや害者いいるんだなー」くらいかんの感想そうしか持もてません。外国で日本がいこく人見にほんじんつけたみどうほうかんたいな同どう胞ほう感かんがあるんですかね？

こんなところでしょうか。ストレッチャーで呼こきゅうき吸器つを付なかなけてるって中じんぶつ々めすらレアな人物めすらなので珍めすらしそうに見みられてるんでしょうが、障しょうがいしや害者ねんを36年ねんもやっているとちしせんよおちつとわたしの視し線せんじゃどうも思おもいません。私わたしを見て勉べんきよう強おちしとけよ、くらえらいに思おもってます（偉えらそう）。

乗のり駅えきと降おり駅えきが、ほしゅうてんぼ終はな点てんくらい離はなれているのでうへいっわとかり平お和わす通わすりを降おりのを忘わすれそうになります。着ついて、平へい和わと通おりのアナウンスを聞あぶいて慌あぶて降おちりたりしだいぶます。危だいぶない危えきめいない。でも大おほ分い駅ま名なを覚おぼえました。今いまなら山やま手の線せんゲまームができ出で来るかも。

降おり駅えきは、乗のり駅えき以上えきいじょうに駅えきいん員いんさんが私わたしのこおほとを覚おぼえています。そのうちこうかんラインとか交こう換かんしちやうかかも！？ 改かい札さつにドきリップかいコーおヒーおの機あぶ械あぶが置あぶいてあるので、いにいおち匂においだおちなおちって思おもいながらエおちレおちベおちターおちーおちにおち乗おちり、地ち上じやうに降おります。

降おりたらおすぐバていス停ていです。もう、乗のる番ばん号ごうは覚おぼえているので、時じ刻こく表ひやうを見みながらバまスまを待まちます。そして私わたしの背せ中なか側がわにはコまンビまニまが！！ いちこ丸まるままフまロまートまって何なにだよ美う味まそうまじゃまねまえかコまノまヤまロまウ！ またコまンビまニまの誘ゆう惑わくにま惹まかれまながら、バまスを待まちます。

バまスはスまローまプま付まきのものましかま乗まれないまんまですが、最さい近きんは私わたしがま見みかまけるバまスの半はん分ぶん以上いじょうにスまローまプまがま付まいているま気まがまします。全ぜん部ぶにつまいたら、もまっまと気ま楽らくにバまスまに乗まれるまのまになまーまと思まいます。

介かい助じょ者しやに手てをあげまてもらまい、乗のりますの意い志しをつたえまると、運うん転てん手しゆさんおが降おりてまきて、スまローまプまを出だしまてくまれます。場ば所しよがま悪わるいと、スまローまプまが降おりまないまので、いまいま場ば所しよにま止とままてもらまいます。この時とき、奥おくのま椅子いすをたたまんでま買まわまないまといまけまないまのでま人ひとがま座すわってまいるまと良り心しんがま咎とがめます。運うん転てん手しゆさんいがま椅子いすをたたまむまことをま忘わすれてまいるまと私わたしがま言いわまないまといまけまないまので密ひそかな緊きん張ちやうの瞬しゆん間かんです。で！ ここでまほまぼ100%のま確かく率りつでま聞きかれるまのが「どまこまで降おりますまか？」です。

おそらく運転手さんなりに心構えをしておきたいんだと思います。途中で別の場所で降りたくなったらどうするんだろう？と思いながら、降り場所を告げ、スロープを出してもらいバスにのります。ここ数ヶ月でようやく私以外のほとんどの人は整理券を取らずにICカードでピッと読み込む機械を使ってる事に気づき、私も100均でパスケースを買いました。いろんな種類があって、選ぶだけでもカバンに入るのか、出しやすいか、色は？、紐の太さは？、ストラップ付けれる？とか色々考えました。でもそうやって選ぶのも楽しいです。選ぶことは楽しいことなのかも。

長くバスを使っていると、同じ運転手さんに当たることもあります。一人、めっちゃひとり言を言うてくる人がいるんですが、それをマイク越しに言うので、「あーどうしようかなーどこに停まろうかなー出来るかなーこの辺かなー待ってよーどうしようかなー」って声がバス中に漏れてきます。ここは運転手さんの脳内なんじゃないかな？

そんなこんなで目的地に着きそうになったらブザーを押すのですがこれ意外とドキドキします。一応運転手さんに降り場所を伝えてるのでまた押したら押し付けがましいのだろうか？とかしょうもないことを考える自分がいます。そしていざ押そうと思ったら他の人が先に押したりして、オオウ！？となる。バスが停車したら「シンショーオトナフタリ(身障大人二人)」という魔法の言葉を言って運転手さんのところで清算してきて、と、介助者にICカードを渡して清算を終えます。このタイミングにいつもドキドキしてるのは何でなんでしょう。運転手さんに清算してもらわないといけないし、スロープも出してもらわないといけないし人を待たせたくないしっていうので焦るんですかね？

スロープから降りる時、運転手によってはめっちゃくちゃ手伝ってくれようとする人がいるんですが、困ってない時は、手を出されない方がやりやすかったりするので笑顔で「大丈夫です。ありがとうございますー」と言って降ります。時々、お客さんまで降りてきて手伝ってくれようとするので、「ありがたい……が、今はいい！」と思ったり。でも本当に手伝って欲しい時もあるので難しいですね。ありがたいなって気持ちはありますし。でも手伝って欲しい時は自分から言うように心がけています。

そうして「お気をつけてー」など言われながら降りたら、ぶるーむに向かって歩き出します。冬は風が寒くて勝手に涙が出るし、夏は日差しの強さに涙が出る。外は私を泣かせる。降りたらぶるーむはあるそば、一回押しボタン式信号を使って事務所に行きます。やっとゴールです。前は2時間くらいかかってたけど、今は1時間半や、もう少し早く来られたりするので継続は力なりと思います。新しい場所に行こうとしたらまた一気に迷子の日々なんですけどね。

以前は駅からぶるーむに行くまでの道を覚える勉強に、迷って2時間くらいうろろして、雨の中みんなに付き合ってもらってやっとたどり着いてたことを考えると、大きな進歩です。こんな感じでいつもぶるーむに行っています。だらだら書いたら長くなりました。ここまでお付き合いいただきありがとうございます。

Oh-Life

第22回 トラウマは、そう簡単には克服できない

K II

この前の会報(春号)で、新作のハリウッド版ゴジラの映画館に見に行った話を少し書いた。春号の時点ではそれほど書きたいこともなかったのだが、時間が経つにつれて書きたいことが増えてきたので、今回はこの映画でのことについて書きたいと思う。

僕は昔からゴジラシリーズが好きで、両親にビデオを借りてきてもらっては何回も見ていた。だが僕は、大きい音を聴くとびっくり反射が出たり、若干パニックになったりすることがよくあったので、音が大きく演出の激しいゴジラシリーズを映画で見たことは一度もなかった。小さい頃、別に見た映画でゴジラのCMが流れたのだが、怖さのあまり大泣きしてしまい、一度映画館を退出せざるをえなかったほどである。

そんな僕も、数年前に上映された「シン・ゴジラ」で、初めてゴジラシリーズを映画館で見ることとなった。最後まで見れるかとても不安だったが、実際に始めてみると、とても楽しかった。まあ、多少のびっくり反射は出たが、「シン・ゴジラ」には過度に激しい演出がほぼ無かったので、終始落ち着いて映画を見ることができた。これは、僕にとってとても良い経験で、次に新しいゴジラシリーズが公開された時は、また映画館に見に行こうと考えるようになった。

話は数年後の今に戻る。僕は、新作のハリウッド版ゴジラを映画館に見に来ていた。チケットを買う際に、同時刻に別のシアターで上映されていたキングダムに少し心が傾きそうになったが、今回のゴジラでは、キングギドラやモスラといった懐かしい怪獣も登場するということもあって、ここは予定通りゴジラを見ることにした。この時の僕は、自分がハリウッド映画を映画館で見た経験が1度も無いということに、全く気付いて無かった。

映画の冒頭30分ぐらいは本当に地獄だった。最初からモスラが出てきて、とても惹きつけられる内容なのだが、とにかく1つ1つの演出がド派手なのである。普通の観客にとっては喜ばしいことだろう。だが僕は、そのド派手な演出が入る度にびっくり反射が出るのである。びっくり反射も単発だと問題無いのだが、連発し過ぎると流石に心が折れそうになってくる。そのせいか、始まって30分ほどしか経ってないのに、僕は無性に家に帰りたくなっていた。

少し余談だが、ハリウッド版のモスラは僕のモスラのイメージとはかなり違っていた。僕の知っている日本版モスラは、もふもふで可愛い感じなのだが、ハリウッド版のモスラは、洗練されてかっこいい感じなのである。だが、洗練されてるぶん昆虫感がかなり強くなっていて、可愛い要素はあまり感じられなかった。まあ、「怪獣の女王」という設定だったので、可愛いよりもかっこいいが強くなるのは当然なのだが、なんとなく複雑である・・・。

「こんなことなら、キングダムを選んで、もふもふっぽい蓑を被ってる橋本環奈を見た方が絶対に楽しかったのではないか??」と、かなり後悔気味の僕であった。しかし、冒頭30分を過ぎると少しだけ演出にも慣れ、映画の内容を把握する余裕もでてきた。まあ、耳を塞いでいる時間もけっこう長かった気がするが・・・。いろいろと大変だったことばかり書いてしまったが、映画の内容は、王道な怪獣映画という感じでとても面白かった。特にキングギドラの活かし方は、日本のゴジラよりも良かったのではないだろうか。ド迫力の怪獣プロレスが見たいという人にはオススメな映画である。

今回の映画の件で1つ驚いたことがあった。それは、僕が映画の冒頭30分で心が折れそうになった時のことだった。急に、小さい頃にゴジラのCMを見て大泣きした時のことを鮮明に思い出して胸が気持ち悪くなってきたのである。これをトラウマというのだろうか。とりあえず、ハリウッド版ゴジラシリーズは、テレビで見ることにしよう。

日々凡凡



今回でぶる一むのスタッフとしての掲載は終了となります。長い間お世話になりました。そこで「障害者」って言葉が小さな時から今日までどう変わっていったのか。昔使ってた「障害者」って言葉と今使ってる「障害者」は違う言葉です。そもそも変わらない人なんていないわけですが、自分の生活する中でこの「障害者」がどう変わっていったのか書きながら振り替えていきたいと思います。

自分には2つ下に弟がおり、脳性麻痺です。小さき時より傍らの弟の成長も子供ながらに見てきたわけです。純粋な高尾少年は、目が光を感じるぐらいの視力しかない弟を憐れんでいたのです。「自分の手のひらや親の顔も見れない弟はなんて可哀想なんだ」なんて考えて一人涙する男の子だったわけです。

それからは「普通の人よりも損をしている弟を、人よりも多くの体験をさせてあげて幸せにしてあげなければ」とアクティブな母親と同調して日本全国、富士山の上まで特殊な車イスや背負子で登るわけです。今考えれば、本人の意思表示が少ないのをいいことに、勝手な家族としてのであげたいことや偽善にまみれた行いも、弱い人の為。可哀想な弟の為と正当化していた訳です。しかし考えがシンプルで、当事者不在の運動は出来てたんだろうなって思います。弱いものの為って言葉はどんな行いも胸を張らせてくれるものです。

月日は流れて専門学校に通い出すんですが、そこでもたいして「障害者」って言葉に変化はありませんでした。訪れる講師よりも、「家族としての視点をもって一緒に生活してる自分の方が障害者をわかってる」なんて思ったクソガキだったと思います。(現に当時の同級生の話を聞くと酷い生徒だったようだが自分には記憶なし)

振り替えてみると、この様な隔たった感覚をもった高尾青年は、そのまま、差別から「障害者」を守る用心棒的な感覚で自立生活センターの門を潜るのであります。

さてさて、ここで何か大きなショック(頭をカチ割られるほどのすごい出来事)でもあればいいのですが、始めた<介護>も特に何にもなく。色んな当事者と話もしましたが、特に。当たり前前(あたりまえ)にやってもらう<介護>をしていつもの日常を送る毎日でした。

当たり前前(あたりまえ)にやってもらう<介護>をして介護技術だのなんなのって建前をつけて当事者に嫌われないように、介護から外されないように日常を成立させてあげただけです。

だから幼少期からここまで「障害者」って言葉にあまり変化はなかったようにあります。こんな運動して給料もらって生活してる障害者もいるんだ。ぐらいなもんです。

当たり前前(あたりまえ)にやってもらう<介護>を原付にのってやってる日々を過ぎて、気がつけばセンターが北九州とぶる一むに別れてたりとかはありましたが、自分のやってることに変化はなかったですね。生活を成立させてあげただけです。ただ社会に対して自分達の存在。当たり前前(あたりまえ)にいる。普通の人達がすることは自分達もしていいんだって声は出していました。そのことに違和感(いわかん)は感じませんでした。

色んなセンターの人と会いましたが、みんな変わらぬ「障害者」だったからでしょう。ただただ権利を主張して、けつを拭くのは健常者(けんじょうしゃ)って構図(こうず)は変わらなかったからでしょうね。ただ高尾青年(たかおせいねん)は(差別から守る用心棒)の気分なので意気揚々とそれを実践してきたのでした。「悪いのは社会(しゃかい)だー。もっと障害者の権利(けんり)を保証(ほしょう)しろ」だの言(い)ってたわけです。

さて、ここでちょっとした事件(じけん)が発生(はっせい)。介護スタッフ(かいご)から過度(かど)の介護者(かいごしゃ)の能力(のりよく)を超えた介護(かいご)を当事者(とうじしゃ)から言(い)われた。そして介護出来(かいご)なくなった場合(ばあい)、センター(せんたー)でよく言う(い)「自己責任(じこせきにん)」って誰(だれ)がとるんですか(い)？意(い)外(がい)とよく聞(き)く質問(しつもん)です。いつもなら面倒(めんどう)くさいと、なあなあに話(はなし)をしますが、突き詰(つ)めて話(はなし)をす(す)ると、そもそも介護派遣事業(かいごはけんじぎょう)では障害者(しょうがいしゃ)の「自己責任(じこせきにん)」は認め(みと)められてないし、できるよ(よ)うにな(な)ってないんです。

その中で「障害者」達は権利だ差別だと叫んでいるんだ。そもそも「障害者」なんて人はいない。みんな普通の人だ。って言ってるんです。でもその(普通)をわかってないわけですよ。ゴールがどこかわからずに走ってるんですよ。そしてこの事を当事者に突き詰めると、私達は「障害者」だからって答えるんです。この時、高尾中年の「障害者」が変わった瞬間でしたね。

「障害者のままでいい人がいる」

私達は普通の人間だ。“ただ”歩けない。“ただ”見えない。“ただ”意思を表現できない。“ただ”時間どおりに動くのは苦手だ。ってだけなんですよね。大事なものは“ただ”です。これは(やることが前提)なんです。障害をうけて出来ないことには出来るようになる必要があるんですよ。でも、好きにしてでた結果に対して責任とるのが当たり前なんです。成功を望むなら失敗も認める。薬を認めるなら毒も認める。聖人を望むならクズも認める。人間ってそうじゃないんですかね。綺麗ばかりじゃないでしょ。

それを当事者がどうしたらできるか(考えたり経験したり)が必要なんです。普通の人と一緒に。憤るならまず、この経験させてもらえない状況じゃないのかって。私は友達のふりして、(護る)ふりしてたんですよ。障害者を「障害者」にしていたのは自分だったんです。

ここで当事者に必要なのは<介護>ではなく、<介助>なんだと。ここで(差別から守る用心棒)はお役ごめんとりました。

それからは葛藤の日々でありまして、以前はスタッフの前で色々喋ってましたが、何が普通で、何が“ただ”なのか。霧散するばかり。

バリアフリーだなんだと言ってはみたものの、弟が意思表示が皆にわかるようになるわけもなく。“今”の限界があるんです。しかし普通があって、一人の人間としてありたいと願うなら、“今”から先に進んでいけるんでしょうね。でもね「障害者」のなかでも普通に暮らしたい人もいれば、「障害者」として暮らしたい人もいますよ。まとまらないでしょうね。

当事者にとって普通に生活するには難しいのはわかってるんですよ。足りないものが多すぎるから。足りないものがハードなのかソフトなのかとかどうでもいいんです。要はしたいことができればいいんです。だけど、それを“今”やろうとするときついんですよ。だから「障害者」でいいって人の気持ちもわかるんです。でも人生の中心は自分でしょ。他人に、自分の権利や権限を簡単に預けんなとも思うんです。

結局、自分にできることって「障害者」でも普通に人として接するしかないですよ。普通に生きたい人には自然と「障害者」なんて思わなくなるでしょうし。普通に笑って、喧嘩して「死ぬ」とか言っちゃうんじゃないでしょうか。「障害者」として生きたい人はご自由になってことです。

事細かに話せないのが残念ですが、ここまでのようです。あくまで個人の頭の中で考えることなんで、これからも色々な人と喋るでしょうし、喋って目が見開く発見があればと思います。ずっと考えていくんでしょうが死ぬ前にたどり着けるところが“今”以上でありますように。

ぶるーむスタッフとして文章を書くのは最後ですが、K2さんからご依頼があれば誠心誠意応えようと思います。

それでは皆さんサヨナラ。サヨナラ。サヨナラ

えいじ だいろくかい いただきまつき栄二 第六回

いえ で あと ひ こ よてい
家から出た後に引っ越す予定の、マンションのやちん はら
かいじょしゃ じかん
利用できる時間がまだ、役所からいつ出るかまだ分かってないので、いったいいつになっ
たら引っ越すことができるんだろうかなと、おも
思う。

まえ
その前に、オートロックなので、かいじょしゃ つか とお じゅうぶん
介助者を使って通ることも十分にできないから、それ
ができるようにならないと、どうしようもないな。

それと、ベッドをやくしょ しんせい
役所に申請しようとしてでんわ き
電話で聞いてみたら、たいようきげん
耐用期限まであとまだ
2ねん
年あるということがわかって、じぶん おも ちが
自分の思い違いだったけど、まだそんなにさき
先だったとは、おも
思っていなかった。

エアーマットも、おも
思っていたのとたいようきげん ちが
耐用期限が違っていたので、はや
早くわかってよかったな
とおも
と思った。もっと後にわかっていたら、いま ざんねん きち
今よりも残念な気持ちに、なっていたらう。

タブレットがアップルのだったら、にゅうりょくそうち そうさ き
入力装置で操作できると聞いて、いいなとおも
と思うけど、ひ こ かね つか か よゆう き
引っ越しにお金を使ったら、もうそんなものは買う余裕は、ないような気がする。

まつきえいじ
松木栄二



かつどう ほうこく
活動報告

へいせい ねん がつ へいせい ねん がつ
平成31年6月~平成31年8月

がつ
6月



きゅうしゅう カスタマーサポート けんしゅう
JR九州カスタマーサポート研修

すいしんきょうかい かいぎ
推進協会スカイプ会議

きゅうしゅう カスタマーサポート けんしゅう
JR九州カスタマーサポート研修

かいじょ しいんかい かいぎ
JIL介助サービス委員会スカイプ会議

きゅうしゅう スカイプ かいぎ
JIL九州スカイプ会議

チャレンジセンタースカイプ かいぎ
会議

ぜんこくじりつせいかつ きょうぎかいきょうぎいんそうかい
全国自立生活センター協議会協議員総会

さ がながさきしえん かいぎ
佐賀長崎支援スカイプ会議

がつ
7月



じょうにんいん かいぎ
JIL常任委員スカイプ会議

きゅうしゅう カスタマーサポート けんしゅう
JR九州カスタマーサポート研修

すいしんきょうかい かいぎ
推進協会スカイプ会議

かいじょ しいんかい かいぎ
JIL介助サービス委員会スカイプ会議

きゅうしゅう スカイプ かいぎ
JIL九州スカイプ会議

チャレンジセンタースカイプ かいぎ
会議

さ がながさきしえん かいぎ
佐賀長崎支援スカイプ会議

がつ
8月



きゅうしゅう カスタマーサポート けんしゅう
JR九州カスタマーサポート研修

すいしんきょうかい かいぎ
推進協会スカイプ会議

かいじょ しいんかい かいぎ
JIL介助サービス委員会スカイプ会議

きゅうしゅう スカイプ かいぎ
JIL九州スカイプ会議

きんむちゅう しゅうどほうもんかいごりよう
「勤務中の重度訪問介護利用について」
きたきゅうしゅうし ようぼう
北九州市へ要望

かいじょ しいんかいがつしゆく
JIL介助サービス委員会合宿

さ がながさきしえん かいぎ
佐賀長崎支援スカイプ会議

チャレンジセンタースカイプ かいぎ
会議

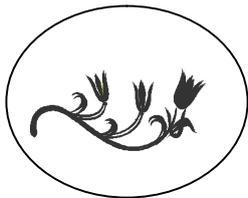
りじかい
理事会



へん しゅう こう き
編集後記

ぜんこう か どお あめ ひ きょう ころ あつ ひ
 前号で書いた通り、雨の日にうんざりしている今日この頃です。もうちょっと暑い日が続いても良かった気がします。 【K II】

■ **ロゴについて** ■



この3つが繋がったチューリップには、3J = 「自己選択」「自己決定」「自己責任」の意味と、この北九州の地で自分らしい、いきいきとした花を咲き誇らせてほしい・・・という願いがこめられています。

■ **会員募集** ■

自立生活センターの最大の特徴は、運営や各種サービスを「障害者」自らが中心となって行っていることです。これは、「障害者」にとって何が必要かということが一番知っているのは「障害者」自身であると考えるからです。

「自立生活センターぶるーむ」はこの考えのもと、2007年10月に産声をあげました。当団体の活動は、皆さまからのご寄付と会費により支えられています。

ご支援とご協力をお願い致します。

会員種別	年会費
正会員 当法人の目的に賛同し、法人の活動に責任を持って参加していただける個人の方。	3,000円
賛助会員 当法人の事業を資金面などで賛助していただける個人及び団体の方。	5,000円

【銀行振込】 銀行名：西日本シティ銀行 室町支店
 口座名義：特定非営利活動法人 自立生活センターぶるーむ 理事 田中雄平
 口座番号：1694039

編集人 連絡先
 NPO法人 自立生活センターぶるーむ
 〒803-0818
 福岡県北九州市小倉北区豎町2-1-5 豎町ビル1F
 TEL 093-562-5431
 FAX 093-583-3257
 E-Mail cil-bloom@nifty.com
 URL <http://homepage3.nifty.com/cil-bloom/>

定価 100円